

## 東日本大震災から 5 年を迎えて

2016年3月1日

中央執行委員長 浜田 一郎

震災から 5 年を迎えるにあたり、謹んで追悼の意を表します。

また、ご家族やご友人を亡くされたご遺族のみなさま、今も不自由な生活を余儀なくされているみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

### 平坦ではない復興までの道のり

甚大な被害を受けた商店街が次々と再開し、昨年 6 月には仙台と石巻を結ぶ JR 仙石（せんせき）線が全線開通しました。こうした動きを見ると、一歩ずつですが、暮らしを支えるインフラが復旧し、復興をめざす力の源となっているのを感じます。

しかし一方で、仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方がおられるなど、今なお多くの課題を抱えており、復興までの道のりはまだ遠いと言わざるを得ません。

### 人と人をつなぐ「かけはし」として

あの未曾有の事態の中、自らも被災者であるにも関わらず、被災地組合員のみなさんがお客さま対応に奔走されたことを、同じ産業人として誇りに感じています。日ごろからお客さまのことを第一に考え、フェイス・トゥ・フェイスによる地域と密着した活動があったことで、困難な状況の中もお客さまや地域への貢献を果たし得たものと考えています。

だからこそ私たちは、日々の活動の重要性を改めて認識し、人と人をつなぐ「かけはし」として、地域に根ざした活動を地道に継続していく必要があるのだと思います。

### 被災地組合員のみなさんの想いをつないでいくために

生保産業で働く私たちは、被災地組合員のみなさんが果たされた役割やお客さま・仲間への想いを、将来につないでいかなければなりません。

生保労連はこの 3 月に「絆フォーラム」を開催し、震災時の対応を振り返るとともに、地域における絆・つながりの大切さについて、一人でも多くの方々と共有したいと考えています。

繰り返しになりますが、復興に向けては未だ道半ばの状況です。今後も震災を風化させることのないよう、私たち一人ひとりが「何ができるか」を考え、組合員のみなさんとともに歩んでいきたいと思っています。